資料２

中部様式

令和４年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

瀬戸市地域公共交通会議

平成２１年４月１日設置

フィーダー系統　令和４年６月２０日　確保維持計画策定等

1.直近の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
■赤津線の塩草地区への延伸による利用実績等を検証することを期待します。	■路線・ダイヤ改正を実施した新設バス停等の乗降者数やにじの丘学園関係の基礎的な利用状況を確認しました。	■利用実績の把握・分析を進め、利用実態を反映した運行に向けて検討をします。
■沿線自治会と連携し、地域にあった公共交通の維持・利用促進が図られることを期待します。特に菱野団地の住民バスについては運転手確保などを続けていくにあたっての課題についてのバックアップを期待します。	■地域に合った公共交通を目指し、沿線自治会と利用促進等を図るため協議、検討を行いました。 　また、住民バスの運転手確保については、市が地元と相談のうえ作成している地元広報誌にて運転手の募集をしております。	■今後も地域に合った公共交通のあり方を検討し、沿線自治会と協議を進めます。 　また、住民バスの運転手確保については、引き続き地元へのバックアップを行います。
■しなの線において、しなのバスセンターでのコミュニティバスへの乗り継ぎについて、効果の検証を期待します。	■運行事業者に確認し、コミュニティバスから名鉄バスしなの線への乗り継ぎ状況を定期的に確認しました。	■地元運行協議会に乗り継ぎニーズを確認し、ニーズを加味して地域に合った運行方法の検討を進めます。
■地域間幹線系統の尾張旭市営バス（東ルート）については、コロナ禍以前から平均乗車密度や収支率が下がる傾向が見られますので、乗り継ぎニーズを把握し、利便性向上及び利用促進を検討されるよう期待します。	■広域的な連携及びバロー瀬戸西店における待合環境の改善に向け、尾張旭市と意見交換を行いました。	■広域的な連携・公共交通ネットワークの形成に向け、地元運行協議会にニーズの確認を行うとともに、近隣自治体と現状の情報共有を行い、利用促進を図ります。

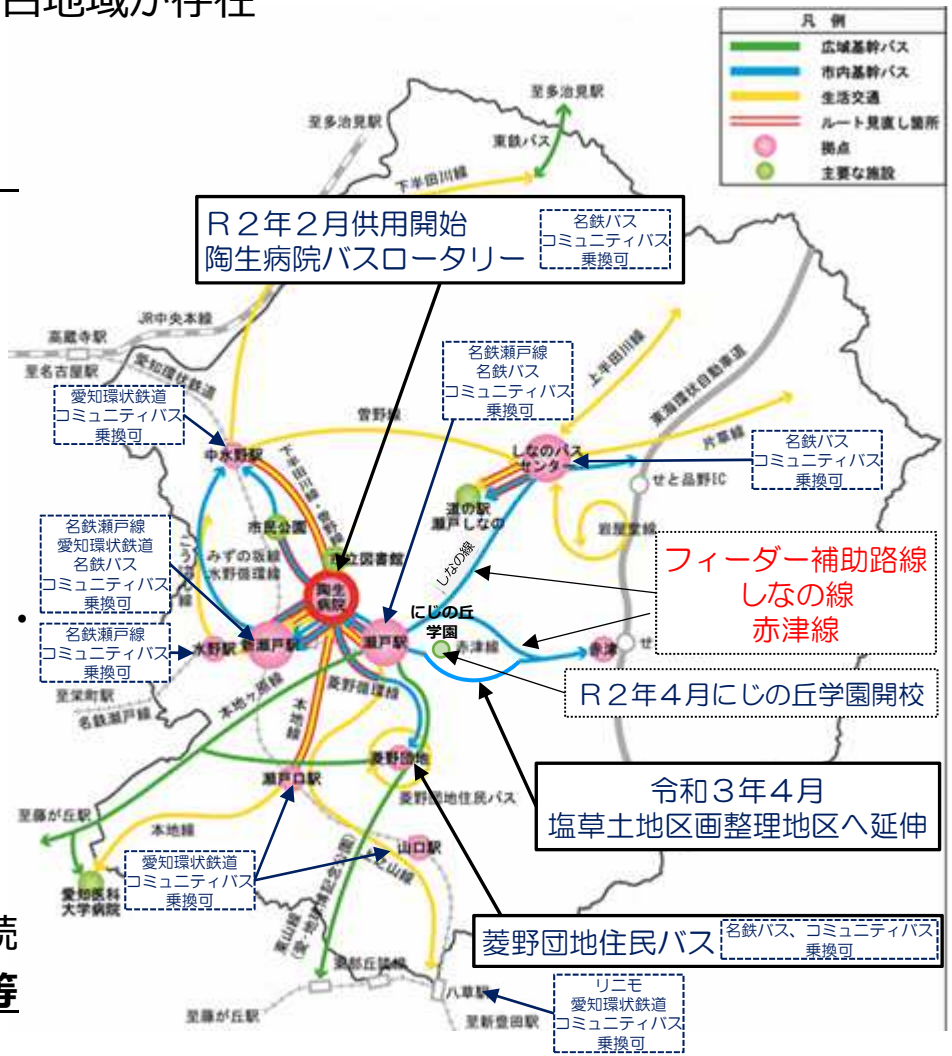
2.協議会が目指す地域公共交通の姿　（Plan）

◆瀬戸市の概要

・人口約12.8万人（高齢化率29.9%）⇒人口減少、高齢化が今後も進行
・人の動き（トリップ数）は減少傾向
・人口密度が高い地域においても、公共交通空白地域が存在

◆瀬戸市地域公共交通網形成計画における基本的な方針と目標（期間：2019～2026年）

・**方針１　都市構造を支える公共交通の確保**
　⇒目標　快適で円滑な乗継が可能となる乗り換え拠点の形成 など
・**方針２　生活を支える公共交通の確保**
　⇒目標　生活交通の確保・維持
・**方針３　持続可能な公共交通の確保**
　⇒目標　市民・交通事業者・行政の役割分担・三位一体の利用促進活動 など



◆公共交通ネットワーク概要（右図参照）

鉄道を基軸とし、周辺都市を連絡する**広域基幹バス**や、拠点間を結ぶ**市内基幹バス**、これらに接続し居住地等を網羅的に運行する**コミュニティバス等**により公共交通ネットワークを形成

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容（１/３）　（Do）

方針１　都市構造を支える公共交通の確保

◆市内基幹バス

目標①快適で円滑な乗り継ぎ・乗り換え拠点形成

・鉄道ダイヤ改正（名鉄瀬戸線）に伴う基幹バスダイヤ改正（R3年10月しなの線、水野循環線、みずの坂線）
・コミュニティバス品野３線から市内基幹バスしなの線への乗り継ぎ状況の把握

１日当たり約４人

にじの丘学園通学に赤津線を活用

目標②拠点間の交通ネットワーク確保・維持

・まちづくりや通学需要に応じた見直し（R3年4月塩草土地区画整理地区へ延伸等）

⇒にじの丘学園関係者以外の利用状況を把握した。

赤津線1日当たりの乗降者数

平日	土休日
R2：614.1人	R2：82.8人
R3：742.1人	R3：79.7人
R4：729.8人	R4：93.0人

※R4は4～9月実績から換算

赤津線学校開校日と休校日の1日当たりの乗降者数（平日）

開校日	長期休校日
R3：796.1人	R3：190.4人
R4：859.4人	R4：225.5人

※R4は4～9月実績から換算

赤津線通学時間帯等の1日当たりの乗降者数（平日）

通学時間帯	その他の時間帯
R3：565.2人	R3：128.0人
R4：565.5人	R4：127.7人

※R4は4～9月実績から換算

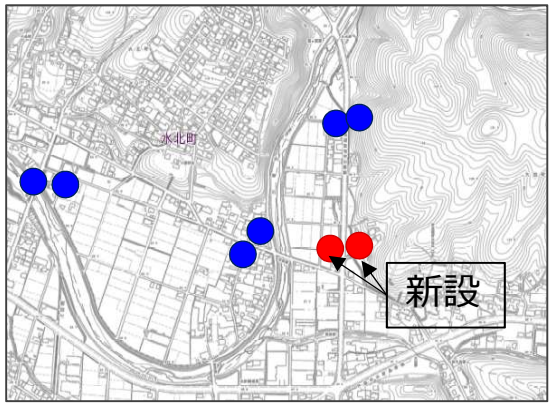
3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容（２/３）　（Do）

方針２　生活を支える公共交通の確保

◆<u>コミュニティバス</u>

目標③生活交通の確保・維持

・地域の利便性向上を図るため地域要望からコミュニティバス曽野線（穴田）にてバス停新設　Ｒ4実績　1.5人/日



穴田周辺のバス停設置状況

方針３　持続可能な公共交通の確保

◆<u>市内基幹バス・コミュニティバス・菱野団地「住民バス」</u>

目標④市民・交通事業者・行政の協働による利用促進
目標⑤公共交通利用意識の醸成

・バスの乗り方教室の開催（①Ｒ3.Ｒ4　2回　②③Ｒ4各1回）

①小学校の授業や保育園等において、市民・バス事業者・行政が連携してバスの乗り方教室等を開催
②今年度からバスの通学利用が多いにじの丘学園（小学校）においても開催
③新型コロナウイルス感染症の拡大後初となる地域行事にてＰＲブースを設置

バスの乗り方教室の様子

地域行事におけるＰＲブース

バスへの愛着を深め、利用促進を図るとともに
警察署の協力で交通安全の理解を深める取組を実施

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容（３/３）　（Do）

・バス広報の発行
　◇地域住民が主体となり、地域ごとに住民目線で行政等と協同で作成、配布（しなの線沿線自治会にて発行）
　◇乗り方や行先や沿線スポットのイベント紹介等
　◇他の各運行協議会にもバス広報の発行の呼びかけ

→　バス利用のきっかけづくり

バス広報の作成例

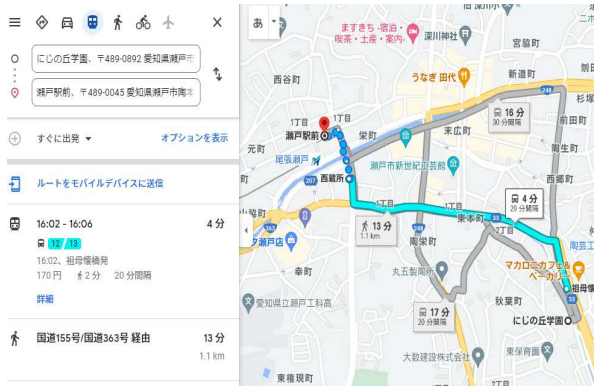
目標⑥利用しやすい交通環境の構築

・ＧＴＦＳ化によるGoogleマップへの対応
　◇令和３年度中にコミュニティバス、住民バス、名鉄バス全路線でGoogleマップにて経路検索が可能に

・陶生病院内調剤薬局と調整し、公共交通マップの提供を開始

・コミュニティバス・住民バスの新型コロナウイルス対策
　◇昨年度施工の車内制菌処理結果の点検、飛沫防止シートの設置、運転手のマスク・消毒等の徹底を引続き実施

→　安心安全で利用しやすい環境の提供



Googleマップの検索画面（参考）

制菌処理済みステッカーによる周知

瀬戸市地域公共交通網形成計画の評価指標について

令和元年６月に瀬戸市地域公共交通網形成計画を策定し、以下５つの評価指標を掲げた。
各指標の現状値と目標値を示す。

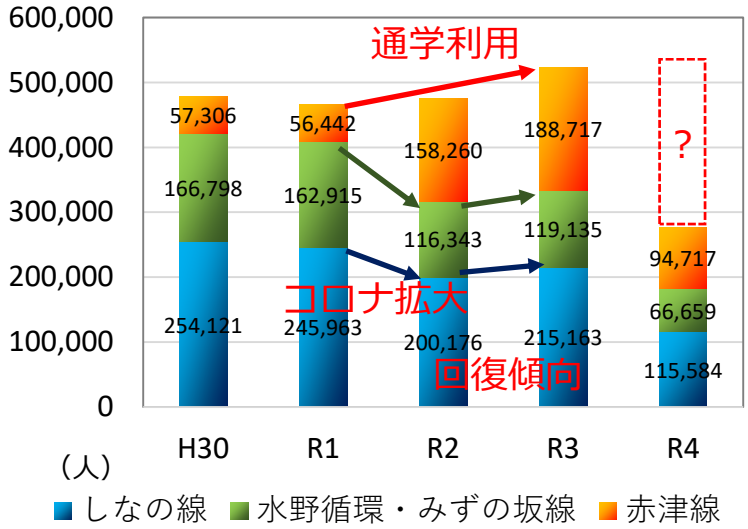
評価指標	直近の現状値（時点）		目標値（Ｒ５年度）	目標値（Ｒ８年度）
①公共交通の満足度		32.8%（R1年度）	55.0%	60.0%
②鉄道の利用者数		6,304,048人（R2年度） 6,593,726人（R3年度）	8,076,000人	8,141,000人
③公共交通300m圏人口カバー率		87%（H30年度）	90%	90%
④市内基幹バスの収支率・利用者数	収支率	33.6%（R2年度） 37.7%（R3年度）	54.0%	54.0%
	利用数	630,892人（R2年度） 687,430人（R3年度） 362,827人（R4年度）	708,500人	708,500人
⑤コミュニティバスの収支率・利用者数	収支率	10.6%（R2年度） 10.0%（R3年度）	15.0%	15.0%
	利用者数	78,945人（R2年度） 78,631人（R3年度） 41,555人（R4年度）	93,500人	93,500人

※Ｒ４年度値は４～９月の実績値

市内基幹バス・コミュニティバスともに低い収支率

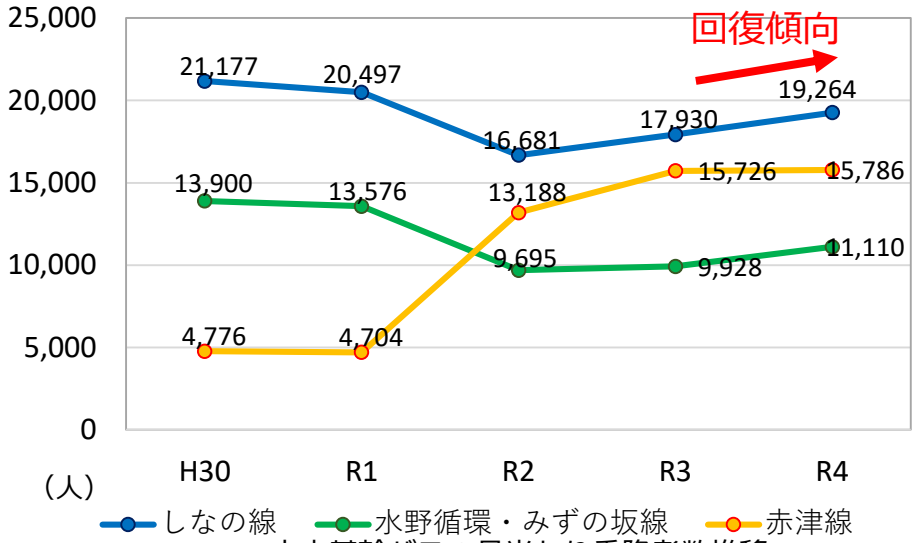
4.計画の達成状況の評価指標とその結果（2/3）（Check）

市内基幹バスの乗降者数推移



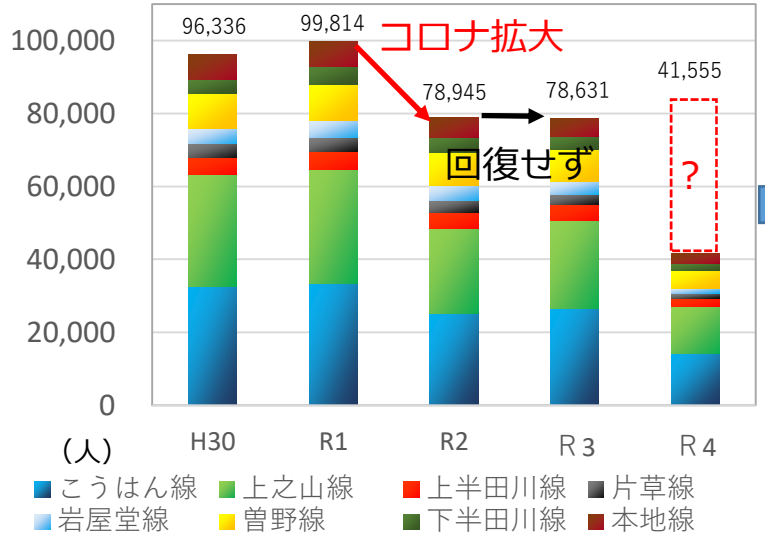
市内基幹バスの年度別乗降者数推移
※Ｒ４年度値は４～９月の実績値

月当たりに換算



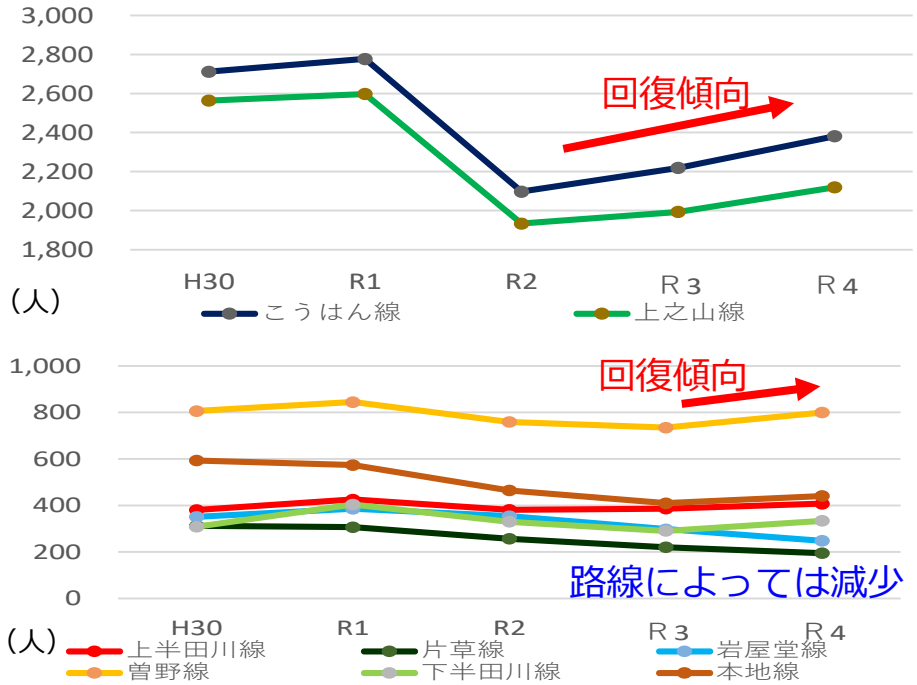
市内基幹バスの月当たり乗降者数推移

コミュニティバスの乗降者数推移



コミュニティバスの年度別乗降者数推移
※Ｒ４年度値は４～９月の実績値

月当たりに換算



コミュニティバスの月当たり乗降者数推移

【生活交通確保維持改善計画（市内基幹バスしなの線・赤津線）における評価】

◆**定量的な指標として「利用者数」を目標値として設定**

対象事業	R４目標値 R３.10～R４.9	R４実績値 R３.10～R４.9	達成状況	達成率
赤津線	159,000人	192,670人	達　成	121.2%
しなの線 （旧瀬戸北線）	201,000人	225,159人	達　成	112.0%

◆**目標の達成状況の考察**

✓赤津線は、小中一貫校にじの丘学園の開校及び塩草土地区画整理地内への延伸に伴い、**土休日も含めて利用者数が増加**。しかし、通学時間帯以外や学校休校日の乗車率が低く、今後への課題が残る。

✓しなの線は、新型コロナウイルス感染症拡大以降、にじの丘学園の通学利用者の増加等により、利用者が回復しつつあり、令和元年度と比較して**約９割まで利用者が回復**。

今後も生活に不可欠な交通手段として維持するため、
「利用実態に合った公共交通の提供」及び「持続可能な公共交通の形成」を目指す

4.自己評価から得られた課題と対応方針　（Act）

課題	①利用実態に合った公共交通の提供
対策	✓運行協議会等で地域のニーズを把握し、ダイヤ改正により利用実態が変化している品野３線において、地域に合った運行方法を検討する ✓運行事業者と協力し、乗降調査では把握できない乗継状況や最終目的地等の移動状況について把握する ✓赤津線の通学時間帯以外と長期休校日の乗車率が低いため、平日ダイヤや夏季ダイヤの見直し検討を行う

課題	②持続可能な公共交通の形成
対策	◆**市民・交通事業者・行政の連携** ✓今年新たに実施したにじの丘学園におけるバスの乗り方教室など、利用促進とともに交通安全の理解を深める活動を継続的に実施する ◆**広域的な連携** ✓広域的な連携に向け、地元運行協議会へのニーズの確認や近隣自治体との情報共有を進め、ホームページを活用した乗継情報等の提供を行う ◆**わかりやすい情報提供** ✓バス利用者が多いバス停に隣接する商業施設内で時刻等の情報提供協力を依頼し、利用しやすい環境づくりを行う

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

協議会名： 瀬戸市地域公共交通会議　　令和4年11月21日

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス株式会社	しなの線	◆しなの線において、運行事業者に確認し、コミュニティバスから名鉄バスへの乗り継ぎニーズについて把握した。 ◆沿線自治会等と連携し、バスの乗り方教室を開催し、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適正に実施された。	A	目標値：利用者数 ◆利用者目標201,000人に対して、利用者数が225,159人となり、利用者目標を達成することができた。 ◆R2年以降の利用者数は、新型コロナ感染拡大により利用者が大幅に減少したが、徐々に回復し、R4年度（4～9月）はコロナ禍以前（R1年度）と比較し、約9割まで利用者数が回復した。このことからも、本路線が地域にとって通勤・通学・通院などで必要不可欠な路線となっていることがわかる。	◆バス利用のPRについて、沿線自治会と協働して「バス広報」を発行する。 ◆令和3年度中にGTFS化によるGoogleマップへの対応が完了したため、今後はその活用と公共交通マップの継続的な配布等を継続し、わかりやすい公共交通情報を提供する。 ◆名鉄瀬戸線及び愛知環状鉄道の駅への接続により、通勤・通学の移動手段となるとともに、公立陶生病院への乗り入れにより、病院利用者の利便性を確保する路線であるため、沿線協議会と必要に応じて見直し等を図り、持続可能な公共交通を目指す。 ◆新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行う。
名鉄バス株式会社	赤津線	◆赤津線の塩草地区への延伸による新設バス停等の乗降者数やにじの丘学園関係の利用状況を確認した。 ◆学校及び運行事業者等と連携し、にじの丘学園にてバスの乗り方教室を開催することで、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適正に実施された。	A	目標値：利用者数 ◆利用者目標159,000人に対して、利用者数が192,670人となり、利用者目標を達成することができた。 ◆利用者数の減少傾向が続いていたが、小中一貫校にじの丘学園開校（R2年4月）により、R2年度以降増加し、地域にとっては通勤・通学などにおいて必要不可欠な路線となっている。	◆にじの丘学園（小学校）を対象にバスの乗り方教室を令和4年度に開催し、利用促進等を図り、来年度以降も継続的に実施する。 ◆名鉄瀬戸線の駅への接続により、通勤・通学の移動手段となるとともに、小中一貫校にじの丘学園の通学手段を確保する路線であるため、沿線協議会と必要に応じて見直し等を図り、持続可能な公共交通を目指す。 ◆新型コロナウイルス感染症対策をしなの線と同様に継続実施する。

（別添１－２）

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年11月21日

協議会名：	瀬戸市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	【概況】 瀬戸市は、市域１１１．４０平方メートルのうち森林が約6割を占めており、市民生活の移動手段として自動車が大きな役割を担っているが、人口減少や高齢化が進展する社会状況のなか、自家用車に頼りすぎず、駅やバスターミナルなどを有機的に連携する交通ネットワークを形成し、将来都市構造として目指している「多極ネットワーク型コンパクト構造」を実現する必要がある。 【しなの線（旧瀬戸北線）・赤津線の位置づけ】 しなの線（旧瀬戸北線）は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅及び新瀬戸駅、愛知環状鉄道の瀬戸市駅、公立陶生病院に接続しており、地域住民の移動手段を確保するものとなっているほか、令和2年4月に開校した小中一貫校「瀬戸市立にじの丘学園」の児童生徒の通学手段を確保するものとなっている。また、名鉄瀬戸線や愛知環状鉄道に乗り換えることで近隣市への移動を可能とするものであり、地域の活性化を図ることを目的とする。 赤津線は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅に接続しており、しなの線（旧瀬戸北線）と同様、地域住民の移動手段を確保するものとなっているほか、令和2年4月に開校した小中一貫校「瀬戸市立にじの丘学園」の児童生徒の通学手段を確保するものとなっている。また、名鉄瀬戸線に乗り換えることで近隣市への移動を可能とするものであり、地域の活性化を図ることを目的とする。 【事業実施の必要性】 しなの線（旧瀬戸北線）及び赤津線は、地域で沿線協議会を設置し、地域の実情に応じたバス運行を目指し、行政と地域住民が協働して支えている路線である。この路線は、主に通学・通勤、通院、買い物など生活に必要な移動手段として使用されており、地域住民にとって必要不可欠な移動を確保するものである。特に学生や高齢者など、自動車を運転できない移動制約者にとって、誰もが容易に外出できる機会を確保することが必要である。また、両路線の沿線地域では、65歳以上の割合が市域全体より高くなっており、安全で安心して移動できる生活交通手段の確保が必要である。